

令和6年度 第2回 会津若松市中小企業・小規模企業 未来会議 要旨

日時：令和6年9月30日（月）14：00～16：00

場所：生涯学習総合センター（會津稽古堂）研修室6

1 開会

2 協議

協議に先立ち、事務局より未来会議設置の経緯や開催目的を説明。

会津若松市商工課長 谷ヶ城を座長として進行する。

①最近の状況や課題、各団体の取り組みについて

市内の景況は引き続き二極化

- ・同一業種でも状況が違ってきている
同じ飲食店でも完全に回復したと言う事業者もいれば、回復しないと言う事業者もいる
- ・製造業は厳しい状況
- ・飲食店はコロナ前 2019 年対比 70%でこれ以上の回復は見込めない
企業単位の飲み会や仕事を取るための接待が減り平日の集客が減少
代行やタクシーが捕まりにくいため、二次会、三次会に行くことも減っている
一次会に利用される居酒屋は良いが、二次会以降で利用されるスナックなどは厳しい
- ・観光業の状況はよい印象がある
- ・一部例外はあるが家族経営の小規模事業所が特によくない状況

破産、廃業、倒産が発生している

- ・コロナ融資の返済に伴い、従前より返済が厳しい事業者(いわゆるゾンビ企業)が廃業
- ・コロナ禍の未納税金に対する売掛債権の差し押さえ
- ・後継者がいない、家族以外には承継しないという意思による廃業

↓

<対策>

- ・融資の条件変更
- ・専門機関を活用した経営改善計画策定
- ・補助金に頼らない経営

好事例など

- ・ものづくりが身近でない最近の子供たちが、簡単に組み立て、絵付けができること、それを通じて親子のコミュニケーションが増えることを願い、赤べこをプラモデル化した「ベこぷら」の販売を開始

※ネット上での誹謗中傷に苦慮している

→・話題になっているのはビッグチャンス、悪い意見を言ってくる人もファンである

・独自のアンケートにより悪い意見を直接吸い上げる、良い意見は公のサービス上に繋がるようにする

・会津若松市にて硬式女子野球チームの設立

所属選手のために地域企業で雇用を創出する必要があるが、既に手を挙げている企業があり、今後の採用や人材確保の観点でこのような動きは重要になってくるかもしれない。

・同友会有志メンバーとアクセンチュアで行っているリ・スキリングで、会津大学生と企業とのマッチングが実現

面白い事例として、会津大学生が企業のシステム開発をする報酬が、一定期間の会社の車の使用权というもの。企業が提供できるサービスと学生のシステム開発の物々交換は、地域と会津大生のつながりをつくる一助になる。

・昨今の米不足は、物価高騰によりパンや麺類の価格が高くなったことも要因であるが、今年収穫の米価があがっている

米農家が儲かり、地域にお金を落とすことによる経済循環に期待したい。

・ある商店街では、後継者がUターンなどで戻ってきて事業承継し、若い人たちも商店街活動にも積極的に参加しはじめたという明るい話題があった

各機関の取組

○会津商工信用組合

<しんくみの日>

9月3日「しんくみの日」に因んで、恒例の市内各所のボランティア清掃活動と献血活動を実施

<あいづしんくみ藩公祭市>

9月22日「第10回あいづしんくみ藩公祭市」を開催

<あいづしんくみ創業塾>

10月3日～11月7日「第21回あいづしんくみ創業塾」開塾。定員10名に対し16名の申込

○会津信用金庫

<しんきんシェアカー>

今年の4月より開始したが、利用者が増えてきている。ワシントンホテル、中町まちなか市民広場、会津武家屋敷駐車場の3か所がステーションであるが、主にワシントンホテルと中町の利用。旅行者も多いが、住民の方が買い物に活用するケースもある

<しんきんのネットワーク>

空知信金主催のチャータークルーズ「にっぽん丸」がいわきの小名浜港に入港。乗客 360 人が 4コースに分かれて福島県を観光したが、内1コースは会津方面のツアーで 90 名程度が来訪。会津信金でお出迎えをした

○会津若松商工会議所

- ・ 物価高騰への対策セミナーを予定している。対策としては価格転嫁があげられるが、事業者によって状況や考え方は様々。セミナーでは、価格交渉に至るまでの様々な準備や交渉の仕方などを学ぶことができるが、セミナーをきっかけに、それぞれの事業者に合わせた丁寧な支援に努めたい
- ・ 創業の相談は年間20～30件程度、うち実際に創業に至るのは1/3程度の状況。BtoC、飲食業やサービス業が多い。創業に至るまでは勿論、創業後の支援にも注力していく
- ・ 11月に神明通りリオンドール跡地で開催するイベントについて、出店者募集の段階であり、多様な業種が集まっている状況。このイベントで、事業者・市民それぞれのまちなか(中心市街地)への考えなどを聞き、今後の取組の参考としたい

○会津若松商工会議所青年部

- ・ 22回目となるジュニアエコノミカレッジがスタートし、11チームの参加
- ・ 地域活性化MAX委員会では会津の外から人を呼ぶ地域イベントとして、七日町市民広場でハロウィンイベントを開催する。県のサポート事業(福島県地域創生総合支援事業)の補助金を活用しており、3年間継続する予定。昨年は鶴ヶ城でコスプレのイベントを開催した
- ・ 10月25日に福島県連合会の臨時総会を会津若松市で開催予定
- ・ 青年部の例会を8月に開催、25～30名程度が参加し、資質向上をテーマに自身で講演をし、その後に懇親会を行った。本年は勉強会だけ参加する会員もあり、青年部に求められていることの変化を改めて感じた。11月には税理士を講師に迎え、銀行戦略、決算書の作り方などをテーマに勉強会を実施する予定

○会津青年会議所

- ・ 月1回の勉強会で青年会議所の意義を見直すことで、やっていることが分かりやすくなり、また勉強会という最初の入り口ができ、6名の新規会員の入会があった

○福島県中小企業家同友会会津支部

- ・ 磐梯山ジオパークの動画コンペを実施。製作費用を賞金にあてて、製作動画を再生数で競う形。10人の学生が参加すれば10の動画ができ、再生数により見る人にリーチするのがどの動画なのかわかる
→会津大生が現在7%しか残らないので、その割合を高めるべく関わっていききたい

シュレッダーゴミの資源化について

前回の未来会議でシュレッダーゴミをトイレトペーパーにリサイクルする取組が話にあがったが、未来会議で連携を図れないか再度協議したい

- ・ 以前に検討していたがトイレトペーパーが不要であり、断った経緯があるが、シュレッダーゴミの提供は出来ると思う。
- ・ 週に何回、回収があるのか、費用はかかるのかなどを知りたい。
- ・ シュレッダーゴミをどのように処理しているか確認してみる。
- ・ リサイクル事業者と話が聞けたらよいのではないかな。
- ・ シュレッダーゴミ以外はどうか。自身の事業所では地域の事業者と連携し、缶や段ボールを集め、福祉施設へ寄付している。

→各メンバーがそれぞれの事業所におけるゴミの処理方法を確認し、次回再度話し合うこととした

②勉強会について

- ・ 講演を聞いても「すごいな～」で終わってしまうのはもったいない。自分事として聞いてもらうには講師との距離感が重要だと思う。遠い存在と思わせないように、例えば、成功の話よりもうまくいかなかった話の方が、反応がよかったりする。講師の方には、これまで実際に行ってよかった講演会やセミナー、またその逆についてもぜひお話しいただきたい。
- ・ 郡山と会津では人材に対する課題のレベル感が違うが、今郡山が抱えている課題はいずれ会津が抱えるであろう課題なので、議論することは良いと思う。
- ・ 人手不足はどの地域も抱える共通課題ではあるが、要因や解決策については地域性や業種の特性がある為、議論の軸が異なってくると思う。地域に関わらず共通の課題として話せるのは人材の定着ではないか。経営者と従業員、従業員と従業員の指揮命令系統の中で、今まで言語を通して伝えていた意図の部分がスムーズには伝わらなくなっている。ハラスメントの問題もあって、どう接していいのかわからないなどの悩みもある。中小企業の利益の上げ方と人材育成といったテーマが面白いと思う。

→人材育成をテーマに設定することとした

3 その他

4 閉会